

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出する行事(ぶどう狩り、みかん狩り、お寺巡り、夕食)などをこれまでより増やし、より利用者に楽しんで頂く、メリハリのある生活を送って頂くように努めている。また畑を設けており、草引きや植え付け、収穫を利用者と共に行う事により、季節を感じて頂いたり、以前の生活を思い出してもらおう環境作りを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の運営する高齢者総合福祉施設の1階にある。法人全体が相互に連携し合い、ホームとしても行事を共に行う、移動用の車を借りる、必要時に機械浴の設備を借りる、看護師・栄養士等の支援を得る等連携している。ホーム内は明るくゆったりとした空間で、清潔感がある。職員は利用者の今までの生活や思いを把握し、一人ひとりのできることを大切に、自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者は地域の祭りや運動会に参加したり、保育所や幼稚園を訪問している。また、地域の方は納涼祭や餅つき、大正琴や太鼓演奏のボランティアでホームを訪れる等、相互の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input checked="" type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム森の園
(ユニット名)	Aユニット
記入者(管理者)	
氏名	桑原 陽子
評価完了日	年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) ミーティング等の職員が集まる機会において、理念に基づいた議題を討議し、職員の意識・業務統一に努めている。また、理念の掲示等により、日々目に付くようにし、意識づけるような体制を整えている。しかし、職員の意識レベルには個人差があるのも現実である。</p> <p>(外部評価) 職員で話し合っって作成した分かりやすい理念で、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えるものとなっている。また、理念及び理念を具体化した行動目標をホーム内に掲げ、月1回のミーティング等で話し合い、共有している。職員は行動目標からさらに各自の目標を決め、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 日常的な生活場面においては、散歩、畑作り等を通じ、近隣の人と気軽に声を掛け合えるような関係作りに努めている。また、行事においては、地域のお祭りへの参加や納涼祭をはじめとする施設行事の案内等を通じ、地域との交流する機会を出来るだけ多く作るように取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の祭りや運動会に参加したり、近くの保育所や幼稚園を訪問している。また、地域の方が納涼祭や餅つき、大正琴や太鼓演奏のボランティアでホームを訪れる等、相互の交流がある。近所の方が季節の野菜を届けてくれることもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学や面会に来られた方から相談を受ければ、認知症の症状や支援の方法などアドバイスできる事は行うようにしているが、それ以外は行っていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況の報告などを行い意見を伺いサービスの向上につながるよう取り組んでいる。	会議には、毎回異なった利用者や家族、職員等が出席することが望まれる。職員が会議に出席することは学習の機会ともなるため、順次出席できるよう検討することを期待したい。
			(外部評価) 会議ではホームの状況、行事、学習会、課題等を報告し、時には利用者と一緒の昼食会を取り入れる等柔軟な運営をしており、会議での意見や情報をサービス向上に活かしている。会議には利用者、家族、地域の住民代表、行政、ホーム職員等が出席しているが、出席者がやや固定化している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム連絡協議会の開催時には、管理者をはじめ職員も数名ではあるが参加し、意見交換を図っている。また制度等わからない事や困った事があればその都度市の担当者に相談している。	市主催の会議でも意見交換を行い、連携を深めている。
			(外部評価) 市担当者とは、利用者の入居に関することや手続き、生活保護、支援上の課題等について相談したり、制度やサービスについての情報を得る等、日頃から連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 定期的に行われる勉強会の中で、議題として取り上げ、多くの職員が学習し、理解を深める場を設けた。また、現状では該当者・該当事項はなし。	ホーム内の勉強会で学習し、身体拘束の弊害を認識したうえで拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は自由に出入りできるよう、日中は鍵はかかっておらず、転落防止のためのベッド柵も使用していない。
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的開催される勉強会の中で議題として取り上げ、多くの職員が学習し理解を深める場を設け、防止に取り組んでいる。 また、現状では該当者・該当事例はなし。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 定期的開催される勉強会の中で、議題として取り上げ、多くの職員が学習し、理解を深める場を設けた。 また、現状では該当者・活用例はなし。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約について説明後に不安や質問をお聞きし理解に努めると共に、分からない事などあればいつでも聞いて下さいと伝えている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日常の交流の中から、コミュニケーションを深め、気軽に声を掛けやすいような関係を築き、意見、要望を受けたり、引き出せるよう努力している。 また、運営推進会議を通し、利用者や家族の思いが表現できる場面を設け、実践できることから取り組んでいる。 (外部評価) 利用者の意見や希望等は、日頃の会話や行動、家族からの情報等で把握し、家族の要望は来訪時の会話、運営推進会議、家族会、意見箱等から把握して、運営に反映している。苦情相談窓口は関係書類に記載し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回の面接やミーティングの機会等で意見を聞くようにし、必要に応じて職員で話し合いを行い、反映するように努めている。 (外部評価) 月1回のミーティング、ユニットの責任者による年2回の面接、アンケート等で職員の意見を聞き、ホームの行事やケアの改善等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価、人事考課、職員からの報告で把握し、可能なことは対応するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修で職員全体の知識の向上を目指している。また個人の希望に応じて法人外の研修への参加も勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通して交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 環境の変化による本人の混乱等から発信される言動や行動を、あるがままに受け止め、よく観察を行い、サインを見逃さないよう努力している。また、意思疎通が困難であっても、そこにはどんな背景があるのか、少しでも本人の気持ちに近づけるよう考慮し支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 当事者に関する情報を得ると共に、当事者対家族の関係性の中で、困っていることや要望等を共有できるよう、時間を掛けて何度も話す機会を設けている。また、話を傾聴し、出来る限り、家族の要望に添えるような支援を行い、信頼関係が気付けるよう努力している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他事業所との連携はかかさないようにし、必要時には、適切なサービスが受けられよう、その時の状態の把握に努め、アドバイスするようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人差はあると思われるが、マンネリ化してくる日々のケアからは、どうしても一方的な縦の関係性に陥ってしまうことがある。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会時には、コミュニケーションに努め、ご本人の様子をお話ししたり、要望を伺う等し、理解、信頼関係を築いている。また、面会時だけでなく、必要に応じて電話等でもご家族と連絡を取り合っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族やご本人からお聞きするだけでなく、知人等の面会の際にはさしつかえのない範囲で関係を伺ったり、今後も面会に来て頂けるような雰囲気作りを努めている。また、地域交流できる機会を作ったり、ドライブ等で馴染みの場所へ行く等の支援も行っている。 (外部評価) 家族、親族、友人等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりを心がけており、来訪した方から利用者の情報を得るよう努めている。ドライブで馴染みの場所へ一緒に出かけることもある。また、利用者が結婚式や葬式に出席できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) フロアで皆で過ごして頂けるようなレクリエーションを企画したり、会話に職員も入り楽しめるよう配慮したり、お互いが助け合えるよう役割を分担する等の支援に努めている。また、利用者間の関係を理解し、関わりやすい環境作り（例えば、座席の位置等）にも取り組んでいる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所の際には、移り住む先の関係者へサマリーを提供し、必要に応じて情報提供・相談に努めてはいるが、本人・家族へのフォローに関しては、相談があった時に留まっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に思いや意向を聞き出せるよう支援を行い、今後の支援に活かせる情報はスタッフ間で共有している。また帰宅願望や不穏の際には、ご本人の思いをよく傾聴したり、できる範囲で希望に添った対応を心がけている。対応が難しい場合には、思いの原因（背景）を探るため、情報収集、話し合いを重ね検討している。 (外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の会話、行動、利用者同士の話、ミーティングに参加した利用者の発言等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時、ご家族や関係機関から情報を把握すると共に、入所後もご本人・ご家族と信頼関係を築き、さらに支援を行う上で必要な情報の収集、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりを通じて、心身状態の観察、把握に努めながら、できる力を大切に個々のできるレベルに合った役割の発見に努めている。食器拭き、洗濯物たたみ、お茶くみ、台拭き等。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 介護計画は、本人、家族の要望や意見を可能な限り取り入れ、カンファレンスや日常業務を通じて職員間で話し合い作成している。また、ご本人、ご家族等から新たな要望や状況の変化があれば、その度、話し合いや計画の見直しを行っている。 (外部評価) 計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の意見を反映しながら、職員間で話し合っ介護計画を作成している。介護計画は月に1回モニタリングするとともに、利用者の状況が変化した時はその都度作成し直している。計画の援助内容をチェック表にあげて毎日チェックし、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者の日々の様子やケアの実践・結果は個別記録だけでなく、職員間で情報共有し、よりよいケアを提供できるよう話し合い、介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況、要望は可能な限り受け入れ、ニーズに対応できるよう努めてはいるが、サービスの多機能化に関しては、現在目指している段階である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者が、自宅で暮らされていた頃にできる限り近い環境で生活できるよう、地域資源の把握に努めているが、個々のニーズに添った活用への取り組みに関しては不十分である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時に本人及び家族等の希望を確認し、馴染みのある 医師による継続的な医療を受けられるよう支援して いる。また、往診に来てくださる病院も把握し、必要 な方に診療が受けられるよう体制を整えている。施設 の嘱託医に週一回は、往診に来て頂いている。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援して いる。受診時は家族が付き添うことにしている。協 力医療機関から週1回の往診があり、健康管理の面で 安心感がある。また、必要時には建物内の同法人施設 の看護師の支援も得られる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日々の健康管理、観察はもちろんのこと、看護職、か かりつけ医と24時間体制で、状態の変化や異変の早期 発見に努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、環境の変化への不安や混乱を最小限にで きるよう医療機関へサマリーを作成し情報を提供して いる。また、入院時においても必要に応じて情報交換 を行い、退院に備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時には、できる限り医療関係者と連携し支援する が施設の対応に限界があることも説明しご理解頂いて いる。身体状況の変化においては、その度、ご家族や 医療関係者等と連携、話し合いを蜜にしできる範囲で 必要な支援に努めているが、現状としてターミナルは 取り組んでいない。 (外部評価) ホームでできる限りの支援を行い、必要時には同建物 内施設に配置された看護師の支援が得られるが、重度 化や終末期の対応は行っていない。重度化や終末期に 向けたホームの方針については、早い時期から利用者 や家族と話し合い、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日々、かかりつけ医、看護職との連携に努めており、急変や事故発生時に備えて、連絡方法や手順は把握している。応急手当や初期対応においては個人的に研修等で身につけている職員もいるが、定期的な訓練は行っていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) マニュアルを作成しており、地域の消防署の指導により、年2回訓練を受けている。また、地域の方へ防災訓練に参加させて頂けるようお願いしており、施設の防災訓練にも参加を呼び掛けている。 (外部評価) 防災訓練は年2回、昼間及び夜間の想定で、消防署の協力を得ながら行っている。ホームは地域の方に災害対策への協力を依頼しており、次回の防災訓練には地域の自主防災組織も参加してもらう予定である。近所の方の訓練への参加・協力の体制は築かれていない。	災害時、職員だけではの初期対応、誘導等には限界があるため、地域の中でも特に近所に住む方の協力が得られるよう、運営推進会議等で話し合い、一緒に防災訓練を行う等の工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 全職員が、利用者の尊厳、プライバシー確保の重要性を理解しているが、ケア方法に個人差ができてしまっているのが現状である。 (外部評価) 一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉かけや態度で接している。自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守り、トイレ誘導は可能な限り同性の職員が行う等、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) おやつの際に種類がある物に関しては利用者を選んでもらったりする程度で、日々の雑談などで利用者の希望を引き出すように努めているがあまり出来ていない現状であり、もっと実現に向けた取り組みが必要である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望を聞きながら、日中居室で過ごしたり、自由参加でレクリエーションを楽しんでもらったり、就寝の時間も夕食後すぐに休む人、テレビを見る人、おしゃべりする人などそれぞれのペースで過ごして頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 気温、気候、季節を考え衣服を準備している。散髪は施設に回ってくる理容師によって行われている。しかし朝の更衣時は利用者を選んでもらわず、職員が選んでいる事が多いという点では、まだ課題が残る。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の物や行事の際の食事などの考慮は行っているが、献立を職員が立てており、個別のニーズを引き出すような取り組みはない。食事の準備では、もやしのヒゲ取り、すじとり等を手伝ってもらっている程度である。献立は日々の雑談から聞きだしていけるようにしていきたい。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に食材を買いに行き、料理の下ごしらえ、食卓拭き、配膳・下膳等を行っている。昼食前の嚥下訓練を習慣とし、職員は時間がかかっても自力で食事する利用者を見守り、利用者の状態に合わせて刻み食にする等の支援をしている。献立は職員が立て、同法人の栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者のペースに合わせて声掛けし、必要な水分量を摂ってもらっている。献立も管理栄養士にチェックしてもらっている。食事量も利用者の体重、生活習慣病などを考え調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、利用者の自立度に応じて、行っている。また、口臭がある人には口腔内の洗浄液を使ってもらう等、状態に合わせてケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別的に排泄パターンを掴み、必要な人には昼夜関係なくトイレ誘導を行っている。夜間オムツを使用している利用者はいるが、日中はトイレで排泄してもらうなど、可能な限りトイレ内で排泄してもらうように努めている。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。必要時には紙パンツやパッドを使用しているが、夜間のみおむつを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便状況、間隔には留意しているが、朝の水分補給時に排便間隔があいた利用者には牛乳を飲んでもらうといった様な工夫はあまりできていない。下剤の使用に頼っているのが現状である。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 時間帯は午後の1時から4時ぐらいに入浴してもらっている。また、入浴の声掛けは入浴期間が開いている人を優先にはさせていただいている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を基本としている。一番風呂を好む方にはその希望にそって対応し、入浴を拒む方には声かけを工夫する等、一人ひとりに合わせて心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状況等によっては同法人内の機械浴を借りることもできるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 夜じっくり眠ってもらうためなるべく昼間は、起きるように促したり、担当医になるべくベッド臥床をするように勧められている利用者にはこまめに声掛けし、休息を促している。日中の活動状況、夜間の様子などは職員間でよく情報交換ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 医師の指示がある薬に関しては利用者の状態にあわせ、薬を調整しているが、それ以外の薬の目的・副作用に対し、職員間で情報交換する機会などはもっと必要である。誤薬、飲み忘れは、二人以上の職員で内服の際チェックし防止している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の能力に応じお茶くみやお皿拭き、洗濯物たたみなどを利用者の負担とならない程度に活動の支援を行っている。またスピーチが好きな利用者には、行事で挨拶して頂くなど、利用者の性格なども考え役割分担している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事という形で外出しているが、場所・日程・段取りを職員が決めているため、その日の希望に応じた対応はできていない。帰宅願望が強い利用者が落ち着かない時、地元をドライブする事など検討したが、実現に至っていない。	
			(外部評価) 利用者は、広い敷地内を自由に散歩したり、畑の草引きや収穫を手伝ったり、近所の方と挨拶を交わしたり、職員と食材を買いに出かけたり、玄関先で日光浴をする等、戸外で過ごすことを楽しんでいる。花見、苺狩り、虫狩り等、行事で遠出する機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の管理はほとんど職員が行っている。週三回食材の買出しの日があるが、一部の人しか同行できず、同行しても欲しい物を買ってもらおうといった事はあまり出来ていない。施設に車で回ってくるパン屋さんで買い物してもらうこともあるが、買い物を生活の楽しみの一つとする支援は行えてない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望があれば家に電話する事があるが、こちらから働きかけて電話したり、手紙を書いてもらったり（年賀状以外）は行っていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節によって壁の飾りを変えたり、フロアの椅子も利用者の状態により、手すりつきとそうでないものを使い分けるなど安全性を考慮している。</p> <p>(外部評価) 居間は明るくゆったりしており、見やすい時計やカレンダーがあり、季節の花や行事の写真等を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレは気になる匂い等もなく、清潔感がある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 皆で過ごすテーブル席以外、テレビの周りにはソファがあったり、そこから少し離れた場所に長椅子があったりと、一人でも過ごせる空間を設けている。また皆で過ごすテーブルも利用者間の関係を考え、時には席替えを行うなど、気のあった者同士で過ごせるように工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 入居時になじんだダンスや手押し車などを持って来ていただくように入居案内に記し説明している。また安全に過ごしてもらうために、居室内のテレビ、棚の配置などを利用者の行動などを考慮して決めている。</p> <p>(外部評価) 窓が広く明るい居室には洗面台が設置され、利便性が高い。室内には利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、時計、鏡、テレビ等が持ち込まれ、写真やお気に入りのマスコット等も飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 歩行を促すための工夫している。また、利用者の歩行能力を考え、居室と食事席を近くしたり、夜間のトイレが多い方はトイレに近い居室にしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3871000224
法人名	社会福祉法人愛信会
事業所名	グループホーム森の園
所在地	伊予市森甲440番地1
自己評価作成日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然 豊かな環境の中で静かに そして、心豊かに過ごして頂けるような雰囲気作りにも努め出来る限り、決まり事を作らないようにし、個人個人のペースに合った生活が出来るようにしている。又、季節に合った行事や地域との交流の時間を生活の中に多く取り入れることによって、四季を感じ、生きがいを持った生活が出来るような環境作りにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは同法人の運営する高齢者総合福祉施設の1階にある。法人全体が相互に連携し合い、ホームとしても行事を共に行う、移動用の車を借りる、必要時に機械浴の設備を借りる、看護師・栄養士等の支援を得る等連携している。ホーム内は明るくゆったりとした空間で、清潔感がある。職員は利用者の今までの生活や思いを把握し、一人ひとりのできることを大切に、自立に向けた支援に取り組んでいる。利用者は地域の祭りや運動会に参加したり、保育所や幼稚園を訪問している。また、地域の方は納涼祭や餅つき、大正琴や太鼓演奏のボランティアでホームを訪れる等、相互の交流がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム森の園

(ユニット名) Bユニット

記入者(管理者)

氏名 桑原 陽子

評価完了日

年 月 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 全職員で検討し作った事業所の理念がある。玄関などに掲示し意識付けを行うと共に、入職時オリエンテーションやミーティングの機会に話を行い、実践に結びつけるようにしている。</p> <p>(外部評価) 職員で話し合っって作成した分かりやすい理念で、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えるものとなっている。また、理念及び理念を具体化した行動目標をホーム内に掲げ、月1回のミーティング等で話し合い、共有している。職員は行動目標からさらに各自の目標を決め、実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 周辺地域の保育所や幼稚園へ訪問させて頂いたり地域のお祭りや行事に参加させて頂いたり、納涼祭をはじめとする施設での行事にお誘いして交流を図るようにしている。また地域の方からみかん狩りに招待していただいたり、季節の野菜を頂いたりしている。</p> <p>(外部評価) 利用者は地域の祭りや運動会に参加したり、近くの保育所や幼稚園を訪問している。また、地域の方が納涼祭や餅つき、大正琴や太鼓演奏のボランティアでホームを訪れる等、相互の交流がある。近所の方が季節の野菜を届けてくれることもある。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 見学に来られた方などから相談を受ける事があり、認知症の症状や支援の方法などアドバイスできる事は行うようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 活動状況などの報告を行い、意見を伺い、サービスの向上につながるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 会議ではホームの状況、行事、学習会、課題等を報告し、時には利用者と一緒に昼食会を取り入れる等柔軟な運営をしており、会議での意見や情報をサービス向上に活かしている。会議には利用者、家族、地域の住民代表、行政、ホーム職員等が出席しているが、出席者がやや固定化している。	会議には、毎回異なった利用者や家族、職員等が出席することが望まれる。職員が会議に出席することは学習の機会ともなるため、順次出席できるよう検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 伊予市グループホーム協議会が開催される時は出席し意見交換を行っている。また制度等わからない事や困った事があればその都度 市の担当者に相談している。	
			(外部評価) 市担当者とは、利用者の入居に関することや手続き、生活保護、支援上の課題等について相談したり、制度やサービスについての情報を得る等、日頃から連携に努めている。市主催の会議でも意見交換を行い、連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 事業所内でも勉強会を行い正しい知識を身につけるように努め、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	
			(外部評価) ホーム内の勉強会で学習し、身体拘束の弊害を認識したうえで拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は自由に出入りできるよう、日中は鍵はかかっておらず、転落防止のためのベッド柵も使用していない。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内でも勉強会を行い理解を深め、職員間でも気を付け防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 活用する機会は現在はないが、制度については学習会を行い理解を深めるよう努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約等の際はその場で質問や不安をお聞きし説明を行う他に疑問点があればいつでも聞いてくださいと声をかけ理解を深めていただくように努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時などに要望をお聞きし運営に反映させるようにしている。利用者や家族の思いが引き出せるように日頃より声掛けを行うようにしている。 (外部評価) 利用者の意見や希望等は、日頃の会話や行動、家族からの情報等で把握し、家族の要望は来訪時の会話、運営推進会議、家族会、意見箱等から把握して、運営に反映している。苦情相談窓口は関係書類に記載し、家族にも説明している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回の個人面接の際やミーティングなどの機会を通じて意見や要望を聞くようにし、必要に応じて職員で話し合い反映するように努めている。 (外部評価) 月1回のミーティング、ユニットの責任者による年2回の面接、アンケート等で職員の意見を聞き、ホームの行事やケアの改善等に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年2回の自己評価、人事考課や職員からの報告で把握し、可能なことは対応するように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内の研修で職員全体の知識の向上を目指している。また個人の希望に応じて法人外の研修の参加も進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等を通じて交流を図っている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前は見学に来て頂きお話をしたりご家族よりお話を聞くことで本人の理解に努めている。また、入所後は本人の思いや環境の変化による混乱などを把握し安心して生活できる環境作りに努め、職員・他利用者と早くなじみの関係が築けるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始前に家族の要望や不安をお聞きし、それに対し具体的なサービス内容を説明し話し合うことで信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 見学や入所相談の段階で本人の状態をお聞きし、必要とされるサービスについて説明させていただくようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 個人差はあるが、調理、畑、季節行事などの事などを教えていただき、共に支えあう関係を築くように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族や知人の面会時などはコミュニケーションを図りご本人について教えて頂いたり、何かあれば相談しアドバイスを頂いたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) いつでも面会に来てくださいと声掛けし訪問しやすい雰囲気作りに努める他、地域のおまつりやなじみの場所に出かける支援に努めている。 (外部評価) 家族、親族、友人等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりを心がけており、来訪した方から利用者の情報を得るよう努めている。ドライブで馴染みの場所へ一緒に出かけることもある。また、利用者が結婚式や葬式に出席できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 性格や行動等考慮しながら、席の配置や作業の分担等を行っている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院により退去になった方のお見舞いに行ったり、退去された方の御家族から相談があればお話を聞くようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の言動やご家族からのお話で、本人の思いや要望の把握に努め、カンファレンス等で情報の共有に努め、支援について検討している。	
			(外部評価) 一人ひとりの思いや希望は日頃の会話、行動、利用者同士の話、ミーティングに参加した利用者の発言等から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご家族や本人から、またケアマネやサマリーなどの情報を基に把握に努めている。また支援していく中で必要な情報はその都度得るようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりのその日その時の状態の把握に努め、それに対し柔軟な対応に努めている。また有する力が活かせる役割を見つけるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日常生活の関わりの中で本人の思いや状態の変化・有する力を把握し、面会時等にお聞きした家族の意見や要望も基に、職員間のカンファレンス等で話し合い介護計画書を作成している。状態の変化があればその都度話し合いを行い変更している。 (外部評価) 計画作成担当者が中心となり、利用者や家族の意見を反映しながら、職員間で話し合っ介護計画を作成している。介護計画は月に1回モニタリングするとともに、利用者の状況が変化した時はその都度作成し直している。計画の援助内容をチェック表にあげて毎日チェックし、実践につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践に加え本人の表情、言語、行動等を記録に残すように努め、職員は、記録に目を通し、日々の業務や介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 入浴時のシャワーチェアー、レクリエーションのカラオケ、映写機その他を共有する事により、サービスに幅をもたせ、地域の行事等にも可能な限り参加するよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のスーパーに買い物に行ったり、地域の保育所や幼稚園との交流を持つことによって、本人の暮らしを楽しく出来るように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医に関しては本人、家族の要望を取り入れ ており、医療機関の受診時などは必要な情報提供を 行っている。又、状態変化があれば、連絡・相談を 行っている。嘱託医は週に1回往診に来て頂いてい る。 (外部評価) 利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援し ている。受診時は家族が付き添うことにしている。協 力医療機関から週1回の往診があり、健康管理の面で 安心感がある。また、必要時には建物内の同法人施設 の看護師の支援も得られる体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 施設内看護職員と連携を図り、個々の健康管理や医療 支援につなげていけるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時にはサマリーを作成したり医療機関職員への申 し送りが必要な情報を提供し、入院中には職員が面会 に行き、病院関係者や家族との情報交換に努めてい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入所時に、現在当事業所で出来る事・対応できない事 について説明させて頂きご理解していただけるように している。状態に応じて早めに家族やかかりつけ医師 へ相談し、必要に応じて他施設や医療機関へ移って頂 いている。 (外部評価) ホームでできる限りの支援を行い、必要時には同建物 内施設に配置された看護師の支援が得られるが、重度 化や終末期の対応は行っていない。重度化や終末期に 向けたホームの方針については、早い時期から利用者 や家族と話し合い、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応マニュアルに各自 目を通し把握出来るように努めている。定期的な応急手当に関する研修はできていない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年に2回、避難訓練を実施している。地域の防災訓練へ参加させて頂くように声を掛けており、施設の防災訓練にも参加をお願いしている。 (外部評価) 防災訓練は年2回、昼間及び夜間の想定で、消防署の協力を得ながら行っている。ホームは地域の方に災害対策への協力を依頼しており、次回の防災訓練には地域の自主防災組織も参加してもらう予定である。近所の方の訓練への参加・協力の体制は築かれていない。	災害時、職員だけの初期対応、誘導等には限界があるため、地域の中でも特に近所に住む方の協力が得られるよう、運営推進会議等で話し合い、一緒に防災訓練を行う等の工夫を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーを配慮した言葉かけ対応を心がけ、職員同士で声を掛け合うようにしている。 (外部評価) 一人ひとりを尊重し、丁寧な言葉かけや態度で接している。自力でゆっくり食事する利用者をせかすことなく見守り、トイレ誘導は可能な限り同性の職員が行う等、利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々のコミュニケーションを通じて、利用者本人の思いや希望を引き出す事が出来るよう支援しているが自己決定の機会が少ないのが現状でありさらに工夫が必要である。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来る限り、本人の希望に沿った生活が出来るよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その日の服装等は、出来る限り本人に選んでもらうよう働きかけ、使い慣れた化粧品を持って来て頂いたり、理容師に訪問してもらおう等して、その人らしいおしゃれが出来るよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 簡単な調理の下ごしらえ、配膳、テーブル拭き、下膳等を行って頂いたり、食材の買い出しを一緒に行う等して食事が楽しいものになるよう支援している。 (外部評価) 利用者は、職員と一緒に食材を買いに行き、料理の下ごしらえ、食卓拭き、配膳・下膳等を行っている。昼食前の嚥下訓練を習慣とし、職員は時間がかかっても自力で食事する利用者を見守り、利用者の状態に合わせて刻み食にする等の支援をしている。献立は職員が立て、同法人の栄養士がチェックしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個々の食事量、水分量を把握し、状態に合わせて栄養の偏り、水分不足が起こらないように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、声掛けや援助により口腔ケアを行い、定期的に入れ歯洗浄等をして、口腔内の清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人一人の排泄パターンの把握に努め、その人に合ったトイレ誘導、声掛けを行い、排泄の自立に向けて支援している。	
			(外部評価) 利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導を行っている。必要時には紙パンツやパッドを使用しているが、夜間のみおむつを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 出来る限り自然排便が出るよう、個々に応じた水分摂取、トイレ誘導、食事、運動等を支援し、下剤を使う際は医師との連携で行ってる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴は、午後から声掛け等を行っているが、希望のある方にはなるべく応じるようにしている。	
			(外部評価) 毎日の入浴を基本としている。一番風呂を好む方にはその希望にそって対応し、入浴を拒む方には声かけを工夫する等、一人ひとりに合わせて心地よい入浴ができるよう支援している。利用者の状況等によっては同法人内の機械浴を借りることもできるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の生活習慣やその時の状態に合わせて、休息が取れるよう声掛けを行い支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人が服用している内服薬一覧表をファイルし、職員が把握出来るようにしている。又、服薬の際は、見守り等を行い、服薬できるよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人一人の生活歴等を元にその人の能力にあった役割を楽しみながら行って頂けるよう支援している。また日々の散歩や嗜好品の買い物、外出などで楽しみや気分転換となるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望時には敷地内ではあるが散歩に行き、買い物やドライブ等にも積極的に誘うようにし、出来るだけ外出の機会を増やすよう努めている。しかし一人ひとりのその日の希望に沿った外出は難しい事が多いのが現実である。家族と外出される事もある。 (外部評価) 利用者は、広い敷地内を自由に散歩したり、畑の草引きや収穫を手伝ったり、近所の方と挨拶を交わしたり、職員と食材を買いに出かけたり、玄関先で日光浴をする等、戸外で過ごすことを楽しんでいる。花見、苺狩り、蛍狩り等、行事で遠出する機会もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人一人の能力に合わせた金銭の所持や使用を支援し、本人の管理が難しい場合は、ホームで預かり、希望時に使用出来るよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人が希望すれば、電話等かけられるよう支援し、年末には、可能な方にはメッセージを書いてもらう等、年賀状を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) フロアに花や季節のものを飾ったり、玄関に外出時の写真や絵を飾る等して居心地のよい共用空間作りに努めている。	
			(外部評価) 居間は明るくゆったりしており、見やすい時計やカレンダーがあり、季節の花や行事の写真等を飾り、心地よく過ごせるよう工夫している。台所、浴室、トイレは気になる匂い等もなく、清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用空間にソファやベンチ等を置き、心地良く過ごせるよう支援している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室に家族の写真を飾ったり、使い慣れた家具を持ってきてもらう等で、居心地よく過ごせるよう支援している。	
			(外部評価) 窓が広く明るい居室には洗面台が設置され、利便性が高い。室内には利用者の使い慣れた小ダンス、衣装ケース、時計、鏡、テレビ等が持ち込まれ、写真やお気に入りのマスコット等も飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 施設は、バリアフリーで建設されており、居室は、一人一人の状態に合わせた家具の配置を行い、安全な環境作りに努めている。	